



カルガモのえさは何が^{なに}いいの

カルガモは^{ざっしょく}雑食

カルガモは、^{きせつ}季節によってわたりをせず、^{いちねんじゅう}一年中日本にいるカモです。アシなどのしげるぬまや水田で、ひなを育てます。イネ科やタデ科などの^{しょくぶつ}植物の実や、水生^{すいせい}こん虫、貝、^{しょうどうぶつ}小動物など何でも食べます。おもに、^{よる}夜にえさを探しますが、^{こうえん}公園の池などでは、^{ひるま}昼間も人間のあたえるえさをよく^た食べています。

オスとメスの^{くべつ}区別はつきません。マガモのメスと、よく似ています。

もし、^{せわ}世話を^{する}なら

おとなのカルガモは、^{ねん}1年のうちのある^{きかん}期間だけ、^{りょう}猫をしてもよい「^{しゅりょうどり}狩猟鳥」に指定されています。しかし、^{たまご}卵やひなをとることは、^{ほりつ}法律で^{きんし}禁止されています。

もともと、カルガモは、^{じぶん}自分の家で、^か飼う鳥ではないことを^し知っておいてください。けがをしたりした鳥を、^{ほご}保護するために^{せわ}世話をすることだけが、ゆるされているのです。

カルガモは、^{しぜん}自然の^{じょうたい}状態では、何でも食べています。ひなも、^う生まれてすぐ、^{おやどり}親鳥の^{あと}後をついて^{ある}歩き、^{おな}同じえさを^た食べることができます。しかし、ひなにとっては、^うアヒルのえさと^{はいごうしりょう}して売られている^た配合飼料のほうが、^た食べやすくいいでしょう。

(監修・今泉 忠明)

